

# 学校の詩

うた

学校の教育目標

## 自律貢献

文責：校長 藤井浩彦

### ◆第38回卒業証書授与式



3月12日(金)、大野城市長 井本宗司様、本校PTA会長 上谷寛治様のご臨席をたまわり、御陵中学校第38回卒業証書授与式が無事終えることができました。100名の3年生が、御陵中学校を巣立っていきました。コロナ禍ということで、式は40分ほどの時間ではありましたが、厳粛な中に、あたたかい式となったのではないかと思います。式の最後に、第38代生徒会長の柴崎楓さんの言葉がありました。先生方から学んだ協力することの大切さ、支え励ましてくれた親への感謝、いつもそばにいてくれた仲間への感謝、そして、最後にこんな言葉を残してくれました。

「高校の入学がゴールではありません。就職して働き始める日がゴールでもありません。これからは別々の道を歩んでいきます

が、常に周囲の仲間と協力し、信頼関係を築いて、新しいことに挑戦していきましょう。人と比べるのではなく、昨日の自分よりほんのちょっと成長しながら、自分自身のゴールに向かって昇り続けていきましょう。みんな、それぞれの場所で頑張っていると思えることが、これからの互いの支えになっていくはずですよ。」

柴崎さんの優しく語りかけるあたたかい言葉に、胸がジーンとしました。会場にいるすべての人々の心に深く刻まれる言葉でした。井本市長様からも、「立派な卒業式でしたね。それに最後の代表生徒の言葉、とても素晴らしかったです」とお褒めの言葉をいただきました。これから卒業生がそれぞれの道で、輝いていってほしいと願うばかりです。

### ◆生徒総会

3月19日、令和3年度生徒会の方針や活動内容を決定していく生徒総会を行いました。1、2年生ともに、提案者の話をしっかりと聞き、大変立派な姿で臨んでいました。また、質問者や修正意見等を代表で述べる各クラスの代議員もハキハキと述べ、素晴らしい態度であったことに感心しました。

令和3年度生徒会スローガンは、『彩光～共につくるあたたかい絆 つながり合って高め合う個性～』となりました。このスローガン達成へ向けて、各委員会様で様々な取組を行っていき、さらに素晴らしい御陵中学校に発展させていってほしいと思います。総会の最後に、第38代生徒会長の肥後琥南さんが、意見発表を行いました。以下、原文です。



【意見発表する肥後会長】

失礼します。まずは、私に意見発表の機会を与您いただきありがとうございます。

先ほどの会のはじめにも言ったように、この学校を引っ張っていくのは私たち1、2年生です。私たち執行部は、毎朝挨拶運動を行っていますが、最近、立ち止まり挨拶が出来ていない人をよく見かけます。

みなさんは、なぜ立ち止まって挨拶をするか知っていますか？それは、相手に感謝の気持ちを伝えるためです。では、挨拶をするときに立ち止まらなかったときのことを考えてみましょう。地域の方々や先生方に挨拶をするとき、心をこめて挨拶をしているつもりでも、立ち止まらなければあまり感謝の気持ちは伝わりません。しかし、「立ち止まる」という動作を入れるだけで、相手に少しでも感謝の気持ちを伝えることが出来ると思います。

何気ない日常だからこそ気づきにくいと思いますが、先生方や保護者、地域の方々に支えられているからこそ御陵中は成り立っています。ですので、感謝の気持ちを伝えるためにも立ち止まって挨拶をしていきましょう。そして、「彩光」というスローガンをもとに協力し、仲間を信頼し合い、みんなが輝く学校をつくっていきましょう！

以上で意見発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。

肥後会長は、いつでも誰にでも大変素晴らしい「立ち止まり挨拶」をしてくれます。肥後会長を中心とした生徒会役員そして最上級生である2年生がこれから学校を引っ張り、素敵な挨拶の溢れる御陵中学校になっていくものと期待しています！

## 『努力の天才』

### 校長コラム

中学時代に私のもとでバレーをし、1年生の時には担任もしていたAくんが訪ねてきたときの話です。内容は、大学が決まったことの報告でした。彼は、中学時代から何事にも前向きで努力する子でした。生徒会の副会長をし、学校を引っ張ってくれる存在でした。彼は筑紫丘高校に進学し、バレーボールと勉強の両立を続けました。しかし、高校3年次の大学受験では、第1志望の大学には不合格でした。彼は、第1志望の大学を諦めず、次の1年は予備校に通う生活を選んだのです。

彼が言うには、予備校を休んだのは、365日のうち何と3日だけだったとのこと（予備校の行事で使えなかったため）。つまり、362日は予備校に通ったのです。しかも、朝8:30～夜9:30まで、正味12時間、ほぼ毎日勉強し続けたとのことでした。彼は、「こんなにも勉強だけをした1年間はありませんでした。かなりきつくて挫折しそうになったこともあります。予備校で共に通う友人の励まし、そして夜遅く帰ってきたときの親からの優しい言葉に支えられました」と話してくれました。

そして再挑戦の受験、将来建築士になりたいという彼は、見事、九州大学工学部建築学科に合格し、報告に来てくれました。彼は言いました。「やっぱり、頑張ると必ずいいことがありますね！それは中学のときに学びましたが、また改めてそう思いました。」

「努力は人を裏切らない！」彼の言葉からそう感じました。本当に、努力を続けることはきついことです。心の弱い私はすぐにさぼってしまいます。偉そうなことを子ども達に言いながらすぐに挫折してしまう自分がいます。でも、こういう話を子ども達から聞くと、私もまた頑張らないといけないと思います。

みなさんよくご存じのイチロー選手、最近も様々なところで活躍されています。彼はよく「天才」と言われました。ですが、彼は小さいときからプロ野球選手になり活躍することを夢見て、今、何をしなければいけないかを自覚し、それを小学校の頃から実行してきました。小学校3年生から野球を始めたイチロー選手は、中学校を卒業するまで7年間、バッティングセンターに通い続けました。休んだのは、お店の休業日の2日間だけだったそうです。また、寮生活をしたイチロー選手について高校でのこんな話がある本に載っていました。

(愛工大名電高校時代)練習が終わってから夕食をとり入浴。そこから消灯時間の11時までが唯一の自由時間だったが、この時間にほとんどの1、2年生は先輩のユニフォームや下着を洗濯していた。だけど、イチローは違った。その時間にもテニスコートで素振りをしたり、陸上トラックに出てランニングをして自分を鍛えた。結局、みんなが寝ている間に洗濯をするために、午前3時起きを自分で決める。3時から5時まで洗濯をして、5時から朝食の準備をするために米をとぎ、味噌汁を作った。丸2年間、この生活を続けた。当時、寮には幽霊が出る噂されたが、それは夜中にこっそり練習するイチロー選手の姿だった。「自分ではそれが普通だったんです。練習できないよりは精神的にずっと楽でしたから」という言葉から練習することが体に染みついていた様子がわかります。イチロー選手の才能をうらやましがるといえます。しかし、イチロー選手が、ずば抜けた才能をもった天才なら、こんなに努力しなくても一流選手になれたはずですよ。発明王エジソンも「天才とは99%の努力と1%のインスピレーションからなる」という言葉を残しています。イチロー選手が天才なのだとしたら、それは人並みはずれた「努力の天才」ということになるでしょう。

エジソンは、白熱電球に使うフィラメントを3000種類調べましたがうまくいきませんでした。それでも諦めず、周りの人に「まだ、2500種類以上は試すことができる！」と言ったそうです。結局6000種類ものフィラメントを試し、完成させました。

画家であるゴッホは、10年間で2000点以上の作品を残しました。ゴッホの腕は、相当な筋肉質の腕だったと言われています。

現在プロスケーターの浅田真央さんは、小さいときから「天才少女」と呼ばれました。ですが、誰よりも早くスケートリンクに行き、誰よりも練習していたそうです。

「天才」と呼ばれる人達は皆、人並みはずれた「努力」をしています。だから「努力の天才」だと思ふのです。私達の目の前にいる子ども達にも、無限の可能性が 있습니다。「どうせ、僕なんか…」「私には才能がないから」と夢を諦める子どもではなく、「私にはできる！必ずできる！」と努力をする子ども達をこれからも育てていきたいと思ふます。

コロナ禍、まだまだ厳しい状況は続きますが、御陵中職員一丸となって来年度も頑張ります。保護者の皆様、地域の皆様、本年度のご協力、ご支援、本当にありがとうございました。